

日本英学史学会 中国・四国支部

ニューズレター

No.55

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

エッセイ

satsuma と薩英戦争

田村道美

5月例会の直前に開催された役員会で、竹中龍範支部長の方から「年4回発行されているニューズレターの巻頭言をこれまで支部長一人が書いてきたが、かなり負担になっているので、副支部長にも分担してほしい」との要請がありました。特に異論はなく、今後は支部長と副支部長が交代でニューズレターの巻頭言を担当することになりました。そのような事情で、今回は副支部長の一人である田村(道)が執筆させていただきます。

わたくしが初めてイギリスへ行ったとき、いろいろなことに驚きましたが、その一つはイギリスでは温州みかんが satsuma と呼ばれていることでした。その理由を調べてみると次のようなことがわかりました。皆様ご存知のように、生麦事件の翌年に薩英戦争が起こります。この戦争において、イギリスはアームストロング砲という日本の大砲よりはるかに遠くまで弾丸を飛ばせる大砲によって勝利を収めます。一方、薩摩藩はイギリスの大砲の威力の凄まじさに驚き、それを自藩に取り入れようとして、イギリスと和平条約を結びます。その結果、両国は貿易を開始し、薩摩藩からさまざまなものがイギリスに輸出されますが、その中に、今の鹿児島県出水郡東町で栽培に成功した温州みかんも含まれていました。イギリス人はそのみかんを「薩摩藩から来たみかん」ということで satsuma orange と呼びましたが、いつしか orange が落ちて、satsuma となったということです。日本でも navel orange がいつの間にかネーブル(=臍)ないしネーブルとなりました。長い外来語を短くする傾向はどの国でも変わらないようです。

5月例会の閉会の挨拶でも申し上げましたが、本年4月より附属坂出小学校の校長を兼務することになり、全校朝礼で、上のような英語や異文化に関する話をしております。このような話で、児童たちが英語や英米の文化や歴史等に興味を持ち、そのうちの1人でも2人でもいいから、将来英学史的な分野に進んでくれるたらと秘かに期待しています。

(日本英学史学会中国・四国支部副支部長)

日本英学史学会中国・四国支部 平成20年度総会

第1回(通算58回)研究例会 報告



日本英学史学会中国・四国支部 平成20年度総会、及び第1回(通算第58回)研究例会は以下の通り開催され、盛会裏に終了いたしました(参加者21名)。ご参加くださいました会員の方々、ならびに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

プログラム

日時：平成20(2008)年5月24日(土)
12:00 受付
会場：広島県立生涯学習センター
3階 第4研修室
広島市東区光町二丁目1-14
TEL：082-262-2411

支部総会(12:30~12:50)

議長 田邊祐司(専修大学)
前年度活動報告、会計報告、会計監査報告、
今年度活動計画、その他

開会行事(13:00~13:10)

司会 鉄森令子(広島県立高陽高等学校)
開会挨拶 支部長 竹中龍範(香川大学)

研究発表(13:10~14:10)

司会 風呂 肇(比治山大学)
田中 正道(兵庫教育大学名誉教授・
広島大学名誉教授)
「昭和初期のラジオ『受験講座』」

研究発表(14:20~15:20)

司会 田村道美(香川大学)
上杉 進(元高水高等学校)
「志士たちの洋学」

研究発表(15:30~16:30)

司会 田邊祐司(専修大学)
能登原 昭夫(元山陽学園大学)
「吟香余聞」

閉会行事(16:30~16:50)

司会 鉄森令子(広島県立高陽高等学校)
閉会挨拶 副支部長 田村道美(香川大学)
写真撮影

懇親会(17:30~19:30)

広島ライオン(広島駅ビル西側2F)

研究発表(1)

昭和初期のラジオ「受験講座」

田中 正道(兵庫教育大学名誉教授・
広島大学名誉教授)



日本放送協会は昭和6年(1931)、第二放送をスタートさせた。その電波に乗せて、高等学校・高等専門学校(旧制)の入試突破を目指す中学4~5年生のためのラジオ「受験講座」の放送を開始、昭和12年(1937)までその放送を続けた。「英文解釈」は佐川春水、「和文英訳」は岡田実麿が担当した。(昭和7年度のみ「語句研究」のセクションがあり、小野圭次郎が担当)本発表では、この講座の番組編成の概要、番組内容の特徴を浮き彫りにした。「英文解釈」の題材には努力、忍耐、勇敢、謙虚さ等を賛美する道徳性・倫理性の高い抜粋が多いこと、「和文英訳」の題材には時局を反映した問題がちりばめられていること等を明らかにした。<田中>

「受験」という名が冠されると、ややもすると、これを教育史の明暗部分のうち暗の側面と捉えがちですが、歴史研究の立場からはやはり descriptive に見るべきで、今回は、これをラジオ英語番組について分析を行っていただき、興味深く伺いました。資料をさらに発掘・調査されておまとめいただければと期待しております。<Dragon>

今日は有難うございました。資料が豊富におありのようですので大いに活用され次回の発表も期待しております。<五十嵐>

昭和初期のNHKラジオ英語講座の歴史・内容・意義・目的など、興味深く拝聴できた。旧制中学生の受験勉強が激しかった時代の英語講座講師陣のエピソードなども楽しかった。<風呂>

昭和初期において、このようなラジオ「受験講座」が行われていたなんて大変驚きました。しかも、当初はテキストなし!とは、視聴者は必死にラジオを聴いていたことでしょう。もし、音声資料があれば

聞いてみたいと思います。余談ですが、「ラジオ講座」といえば、大学受験時代に夜、寝ながら聞いた?旺文社の「ラジオ講座」がなつかしく思い出されましたが今は放送されていないようです。インターネットが普及したためでしょうか。<Rainbow>

上下町出身の岡田実麿がラジオ講座を担当していたことを知り、大変興味を惹かれました。ラジオというメディアが英語教育に果たした役割の大きさを改めて感じさせる御発表でした。<Horse>

研究発表(2)

志士たちの洋学

上杉 進(元高水高等学校)

長州藩志士たちの洋学

清風、松陰、玄瑞、晋作そして蔵六



村田清風は、東夷を制するには「術は西洋・・・」と考え、蘭方医青木周弼を登用し、洋学の振興を図った。情報戦争時代の到来を感じ、飛耳長目を唱導し、日本国の海防に留意、関係洋書を翻訳させた。彼を維新回天の導火線として位置づけてみた。

長州人は、記録好きである。従って書簡、日乗を通して吉田松陰、久坂玄瑞、高杉晋作がどのように洋学と向き合ったかを辿った。

そして、村田蔵六は、蘭学と洋式兵学を山口明倫館博習堂において教授し、その設立の狙い(対幕府戦争)にむけ着々とその実を挙げた。'65年大村益次郎と改名、翌年幕府軍を殲滅、'68年最高指揮官として入京。種を播いた清風、実を刈り取った蔵六、両村田の維新回天への尽力は真に大なるものがあった。志士たちの洋学は、よく「術」を捉え、彼らの目的を達成したといえよう。<上杉>

研究発表の後の質問に「何故大村の像が靖国神社内にあるか」というのがありました。

大村益次郎の銅像について(補足): 明治2年

(1869)五月に函館五稜郭の戦いが終わった翌月、兵部大輔として軍政を担当していた大村益次郎の尽力で、勅命により東京招魂社を九段坂上の元歩兵屯所の火除地に設置し、鳥羽・伏見より函館戦争にいたるまで、戊辰戦争の全戦没者が合祀された。明治12年6月、西南戦争の政府軍7,000人の戦死者をまつり、「国を靖(やす)める社」にかえ、別格官幣社靖国神社となった。大村の銅像は、彼の業績を顕彰して、明治26年(1893)日本最初の西洋式銅像として神社内に立てられたのである。〈上杉〉

長州の志士と洋学との関係については、時代を考えれば何か関わりがあるだろうという程度のことしか思っておりませんでした。これに関する貴重な資料を取り上げてお示しいただき、得るところ大なるものがありました。〈Dragon〉

志士の洋学、興味深く拝聴いたしました。志士の洋学研究に共通するものは何か、次回の御発表に期待しています。有難うございました。〈五十嵐〉

長州藩の志士たちが西洋を学ぶべしと志を立てた経緯について、吉田松陰をはじめ、村田清風、大村益次郎の苦勞がよく判った。山口市歴史民族資料館の蔵六の直筆も印象深かった。〈風呂〉

志士たちの洋学修業の実態がよみがえりました。いくつかの視点を設定したうえで整理していただくと分かりがよくなると思います。

〈もみじまんじゅう〉

日本の歴史を動かした人物を多く輩出した長州において、「敗者の歴史は抹殺されるのが常である」はずの「志士たちの洋学」にスポットを当てられご研究をされている上杉先生のお人柄もやはり、彼らの精神を受け継ぐ「長州人」だと思います。

〈Rainbow〉

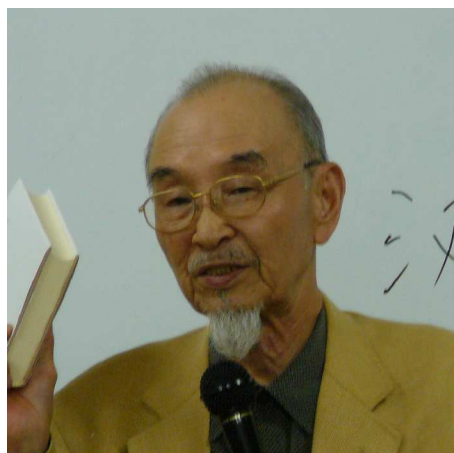
戦争が世界の科学の進歩に影響を与えたように、日本の洋学の進歩もまた、軍備と密接な関係にあることを実証的に示して頂きました。〈Horse〉

研究発表(3)

吟香余聞

能登原昭夫(元山陽学園大学)

激動の時代は、しばしば異才や偉才を生む。歴史の面白いところだ。岡山は旭川の上流、中国山脈の山奥に生まれた吟香もその一人。前回の発表(H19・12・8 於山口大)以後、より精密で包括的な文献二つと、孫麗子の赤裸々な告白 精神病の家系とを読んで、私の吟香観は変わった。吟香の負の側面を考えた。折しも生まれ故郷では、「卵かけご飯の元祖」として地域活性化に利用され、思いのほか人気。



これだけで有名になれば、笑止千万な話。吟香のイメージを壊すものと憤慨したもの、考えてみれば、評価や顕彰なるもの時代によって異なる。吟香の口ぐせの一つ、「ままよ」とばかり割り切ることにした。〈能登原〉

前回の御発表に続いて執念とも言うべき探究心・研究意欲でもってお調べになられたご発表を伺いました。前回のものと合わせ、ぜひ『英学史論叢』におまとめ下さい。〈Dragon〉

岸田吟香先生のご紹介、面白く拝聴いたしました。津山英学史に出てこられる他の人物についても次回に御発表ください。玉子かけごはんはそのうちいただきに行きます。〈五十嵐〉

昨年の山口大学での御発表を受けて、今回ビデオを用いての御発表は楽しかった。いつものユーモア溢れる話しぶり、充実した研究発表に感服したが、能登原先生の「風土が人を作るのか、人が風土を作るのか」という大テーマへのこだわりは流石と頭が下がった。〈風呂〉

岸田吟香が鮮やかによみがえりました。自分を鼓舞する姿勢が現代人にも受け継がれるべきとつくづく思いました。〈もみじまんじゅう〉

岸田吟香 日本で初めて目薬を創った人物、ヘボンとともに『和英語林集成』を編集した人・・・英学史上では聞いたことのない吟香がなぜ英語の辞書?と、始終、疑問でしたが、彼にとってヘボンとの出会いが、大きく彼の人生を変え、また、大事をこなすだけの器を吟香は持ち備えていたようです。そして何より、彼が偉大なのは、大変な家庭環境の中でそれらを成し遂げたことにあります。彼に比べるとちっぽけなことで振り回され溺れている自分が恥ずかしく、反省するとともに「よし、がんばろう!」と勇気百倍!元氣百倍!いただきました。ありがとうございました。〈Rainbow〉

最後の発表はしっかり聞きました。ビデオもあって楽しかったです。生徒と同じレベルになっているのを実感しました。<田村真一>

精力旺盛な仕事ぶりを見せる吟香の原動力は、能登原先生のおっしゃる「負の側面」も大いに関わっているように思いました。吟香を一層身近に感じる機会となりました。<Horse>

～例会運営全般について～

本日の会は、いずれのご発表も充実したものでし

たが、このような機会を多くの人に周知し、関心を持たれた方にその場でご入会いただくという有効な方法を検討しなければなりませんね。<Dragon>

三人の研究発表に大いに刺激を受けた。<風呂>
例会の下準備がみごとにこなされていて、とてもさわやかでした！<もみじまんじゅう>

写真撮影の前に、感想を記入するための時間を十分に確保し、より多くの参加者から感想を提出して頂けるよう、プログラムを工夫してはいかがでしょうか。

中国・四国支部ニュース

平成 20 年度第 1 回役員会

5月24日(土)の支部総会に先立ち、午前11時より役員会を開催しました(出席者9名)。前年度活動報告、会計報告・会計監査報告、今年度の活動計画について審議を行いました。(詳細は以下の総会報告を参照)

平成 20 年度支部総会

5月24日(土)12時30分より、議長として田邊祐司会員を選出し、今年度の支部総会を行いました。議事内容は以下の通り。

平成 19 年度活動報告

事務局より昨年度の活動について報告。内容は、(1)支部総会、(2)第1回研究例会(広島)、(3)第2回研究例会(山口)、(4)『英学史論叢』第10号の発行、(5)『ニューズレター』No.50~No.53の発行、(6)役員会の開催(第1回、第2回)、の6項目です。詳細は『英学史論叢』第11号(pp.94-96)をご覧ください。

平成 19 年度会計報告・会計監査報告

平成 19 年度 会計報告

平成 19 年度 会計報告	
[収入]	
繰越金	14,269
預金利子	34
補助金	13,000
紀要掲載料	15,000
年会費(42口)	126,000
収入合計	168,303 円
[支出]	
通信費	26,520
印刷費	111,090
雑費	7,326
支出合計	144,936 円

[次年度繰越金] 23,367 円

以上、ご報告申し上げます。

平成 20 年 5 月 15 日 会計 松岡博信[㊞]

平成 19 年度 会計監査報告

本学会の会計を、収入並びに支出に関して、それぞれ関係書類、及び領収書等により監査いたしました。その結果、全て適正、正確に会計処理ができていることを確認いたしました。

以上報告いたします。

平成 20 年 5 月 20 日 会計監査 山本勇三[㊞]

鉄森令子[㊞]

今年度の行事計画

1) 研究例会

第 1 回 平成 20 年 5 月 24 日(土)予定通り終了)

・広島市・広島県立生涯学習センター
・例会当日、役員会および支部総会を開催

第 2 回 平成 20 年 12 月 13 日(土)

・福山市・福山平成大学にて開催予定
・例会当日、役員会を開催予定

2) 支部研究紀要

『英学史論叢』第 11 号を発行(予定通り発行・配布済)

3) ニューズレター

例年通り、以下の予定で発行する。

・No.54(平成 20 年 4 月)・No.55(平成 20 年 7 月)
・No.56(平成 20 年 10 月)・No.57(平成 21 年 1 月)

>> 事務局よりお知らせとお願い

今年度の紀要、名簿について

研究紀要『英学史論叢』第 11 号、および『2008 年度会員名簿』を皆様にお届けいたしました。お気づきの点がございましたら、事務局までお知らせください。

会費の納入について

すでに多数の会員の皆様より今年度の会費(一般3,000円、学生2,000円)をご納入頂いております。ご協力に感謝申し上げます。これからお振込みの方は下記口座までよろしくお願いたします。

(口座番号) 01360-9-43877
(加入者名称) 日本英学史学会 中国・四国支部

研究発表者を募集します

今年度第2回研究例会(12月13日(土)福山平成大学にて開催予定)の発表者を募集します。研究発表(口頭発表30分・質疑応答20分・計50分)をご希望の方は、9月末までに事務局へご連絡ください。(お詫びと訂正:前号ニューズレターにて、次回の例会期日を「12月14日」と誤って記しておりました。正しくは「12月13日」です。お詫びして訂正いたします。)

>> 新入会員(敬称略)

斎藤泰成(岡山県)岡山県立岡山東商業高等学校
河井里美(広島県)広島翔洋高等学校

英学史学会全国ニュース

>> 日本の英学200年記念合同大会

(日本英学史学会第45回全国大会・

日本英語教育史学会第24回全国大会)

今年度の全国大会は、「フェートン号事件200年」を記念し、長崎大学(長崎市)を会場に日本英語教育史学会(第24回全国大会)との共催で行われます。2008年10月25日(土)~27日(月)

中国・四国支部会員による発表も多数予定されています。発表者予定者名は次の通り(敬称略)

寺田芳徳、松村幹男、小篠敏明、竹中龍範、
田邊祐司、隈慶秀、保坂芳男、馬本勉

日本英学史学会(本部)の会員登録には、中国・四国支部とは別に手続きが必要です(入会金2,000円、年会費5,000円)。本部の会員登録をしていらっしゃる方で、全国大会にご関心をお持ちの方は、支部事務局までお問い合わせください。

英学史情報ひろば

「日本英学史学会報」No.115(日本英学史学会、5月1日発行) 長谷川勝政「本田増次郎の生涯を追う」ほか

『関西英学史研究』第3号(日本英学史学会関西支部、3月31日発行) 佐光昭二「大阪における英学三校の背景」ほか

前田元敏 著・村端五郎 編『今昔日本人の視点』(高知大学人文学部、3月31日発行) 高知出身の英学者・前田元敏が大正期に *The Far East* 誌へ寄稿した英文随筆 'Japanese Views and Reviews' を翻刻、解説を加え出版された(村端会員)

塩崎 智「幕末維新在ブルックリン(NY州)日本人留学生関連資料修正及び考察(3)」『語学研究』117: pp.33-56(拓植大学言語文化研究所、3月28日発行)

『美作に残る岸田吟香の足跡:坪井の安藤家資料を中心に』(津山洋学資料館 平成19年度特別展図録)(津山洋学資料館、2007年10月14日発行)

今年度第1回の例会において、参加者全員に配布(能登原昭夫会員)

本欄では、事務局へ寄贈して頂いた資料や、お寄せ頂いた英学史関連情報を掲載します。ご提供くださいました皆様に感謝申し上げます。引き続き、皆様の英学史研究に関する著書・論文・講座・記事や、イベント情報などをお寄せください。

広島英学史の周辺(21) 県立広島大学庄原キャンパス図書館に寄贈していただいた故妹尾啓司先生旧蔵書のうち、図書登録されなかった書籍は、馬本研究室で保管しています。その中に『広島県小学習字帖 高等科』(五・六・七)があります。この明治27年発行の習字手本帳の奥付を見ると、発行「庄原 森 晋三」、発売店「広島市平田屋町 森盛文堂支店」と記されています。明治期以降、広島県北地域の教育・文化を支えた森書店が広島市に進出していたことを知り、調査を始めました。平田屋町は現在の立町と本通のあたりだそうです。「町」の字は「田」の下に「丁」と書く「𠂔」。英学史研究には、動用字の知識も欠かせませんね。「木」の下に「公」を書く「松」を思い出しました。今年も猛暑が続いています。どうか皆様ご自愛ください。(馬)

日本英学史学会 中国・四国支部ニューズレター No.55

2008年8月1日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 竹中龍範)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: (0824) 74 - 1725 (直通)

e-mail: umamoto@pu-hiroshima.ac.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

Newsletter No.55 August 1, 2008